

VMware vCloud Director

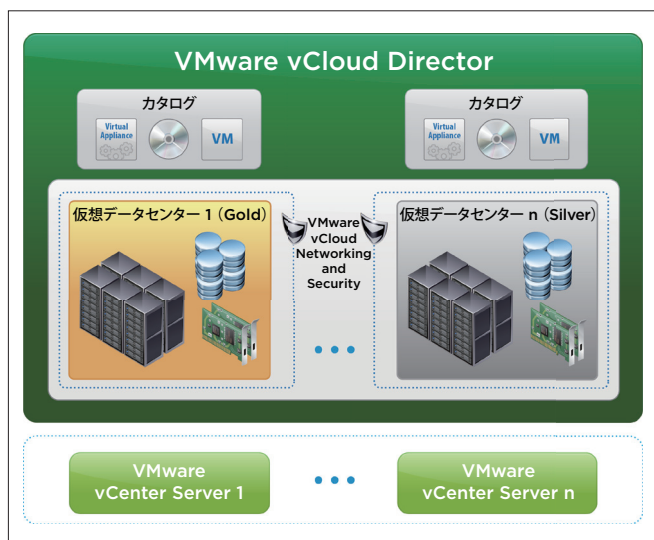
完全な Software-Defined Datacenter Services の提供

概要

VMware vCloud® Director™ は、Software-Defined Datacenter Services (ソフトウェア定義のデータセンター サービス) のプロビジョニングを統合管理することで、完全な仮想データセンターをわずか数分で提供します。Software-Defined Datacenter Services と仮想データセンターによって、インフラストラクチャのプロビジョニングが根本から簡素化され、IT 部門は迅速にビジネスに対応することができます。

主なメリット

- 完全な Software-Defined Datacenter Services を仮想データセンターとして提供
- わずか数分でインフラストラクチャを提供
- ワークロードのセキュリティを確保し、リソースの制御を自動化



VMware vCloud Director は、既存の vSphere ベースのデータセンターを、信頼性の高い IaaS (サービスとしてのインフラストラクチャ) 環境に変換することで自動プロビジョニングを実現する、実用的なアプローチです。

VMware vCloud Director について

VMware vCloud Director は、Software-Defined Datacenter Services のプロビジョニングを統合管理することで、完全な仮想データセンターをわずか数分で提供します。仮想データセンターではコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、およびセキュリティ機能が仮想化されているため、管理者はワークロードの処理に必要な一連のサービスを数分でプロビジョニングできます。Software-Defined Datacenter Services と仮想データセンターによって、インフラストラクチャのプロビジョニングが根本から簡素化され、IT 部門は迅速にビジネスに対応することができます。

VMware vCloud Director の仕組み

完全なソフトウェア定義のサービスを仮想データセンターとして提供

VMware vCloud Director では、ストレージ、ネットワーク、セキュリティなどのすべてのデータセンター サービスに、プール化、抽象化、および自動化の原則を適用しています。これらのサービスのプロビジョニングを大幅に簡素化することにより、IT 部門は、ハードウェアの物理的な構成を考慮せずに、完全に、すぐに使用可能なインフラストラクチャをプロビジョニングできるようになります。

わずか数分でインフラストラクチャを提供

vCloud Director により、インフラストラクチャに迅速かつ容易にアクセスできるようになります。OVF (Open Virtualization Format) 形式のマルチティア アプリケーション用 vApp テンプレートを、Web ベースのカタログから利用できるため、迅速な展開が可能になります。このテンプレート ベースの手法を使用して、データセンター間でアプリケーションを柔軟に移行することができます。

また、vCloud Director は、リンク クローンやスナップショットなどの VMware vSphere® テクノロジーを活用して、インフラストラクチャへのアクセスを大幅に効率化します。また、サードパーティのテクノロジー アライアンス パートナーは、拡張 API および SDK を通じて、インフラストラクチャの提供を迅速化するこれらの機能を利用できます。

信頼性に優れた IaaS (サービスとしてのインフラストラクチャ)

vCloud Director は、ポリシー ベースのプロビジョニング手法を利用してソフトウェア定義のセキュリティとリソース消費管理機能を組み込み、事前構成済みの IT ポリシーを自動的に適用します。VMware vCenter™ Single-Sign-On では、任意の認証プロバイダが生成する SAML トークンを vCloud Director へのログインに使用できます。

セキュリティ以外でも、vCloud Director ではロール ベースのアクセス コントロールにより、許可された使用量を適用することができ、vCloud Director 内の機能に対し、ユーザーごとに異なるレベルのアクセス権を設定できるようになります。また、割り当て、リース、および制限を設定して、既定の限度を超えた場合に使用を制限します。VMware vCenter Chargeback™ と連携することで、ショーバック（コストの提示）とチャージバック（課金）の明細の両方を確認するなど、vCloud Director 内の使用量を完全に把握できます。

VMware vCloud Director の活用

仮想データセンターは、ネットワーク、ストレージ、セキュリティの仮想化を含むすべてのインフラストラクチャ サービスを提供する、新しい論理コンテナです。仮想データセンターにより、管理者はワークロードの処理に必要なすべてのインフラストラクチャ サービスを数分でプロビジョニングできます。

これまでよりも迅速な対応を迫られている企業にとって、IT インフラストラクチャのプロビジョニングは大きな課題です。迅速にインフラストラクチャを提供することにより、企業はセキュリティと管理性を維持したまま、ビジネスに対する IT の俊敏性を向上できます。

VMware vCloud Director の主な機能

仮想データセンター：仮想データセンターは、コンピューティング、ストレージ、およびネットワーク キャパシティが含まれる、完全なソフトウェア定義のサービスのセットです。これにより、インフラストラクチャ サービスの利用と、基盤となるハードウェアとが完全に分離されます。

スナップショットおよび復旧機能：仮想マシンに加えた変更は元に戻すことができるため、何度もプロビジョニングし直すことなく、テストを迅速に行うことができます。

vSphere Profile-Driven Storage と vSphere Storage DRS™ との連携：vSphere のストレージ機能と緊密に連携することで、vCloud Director 環境のストレージの階層化、ロード バランシングによるパフォーマンスの最適化、およびプロビジョニングの簡素化を実現します。

セキュリティ：セキュリティ境界の保護、ポート レベルのファイアウォール、NAT および DHCP サービスなどが統合された vCloud Networking and Security テクノロジーを利用することで、仮想化に対応したセキュリティの提供、アプリケーション展開の簡素化、および標準の準拠に必要なセキュリティ境界の適用が可能です。完全な VMware vCloud Networking and Security にアップグレードすることにより、VXLAN、VPN、ファイアウォールの高可用性、ネットワークの分離、および Web のロード バランシングなど、高度なサービスを提供できます。

vCenter Single Sign-On：ユーザーが 1 度ログインすると、追加認証なしで vCenter Server および vCloud Director のすべてのインスタンスにアクセスできるため、管理が簡素化されます。

迅速なプロビジョニング：VMware 独自のリンク クローン テクノロジーにより、エンド ユーザーはベースの vApp から「子」vApp クローンを迅速に作成できます。このテクノロジーでは、「子」vApp による変更のみを格納して、ほかのすべてのデータはベースの vApp から読み込みます。この仕組みにより、IT 部門はストレージ容量を大幅に節約することができ、クローンされたアプリケーション提供することで、エンド ユーザーは迅速に作業を行うことができます。

vApp Catalog：カタログのボタンをクリックするだけで、マルチティア アプリケーションを、仮想マシン、オペレーティング システム イメージ、およびその他のメディアを含む事前構成済みの仮想アプライアンスとして展開し、利用できます。これにより IT 部門は、サービスの標準化、簡素化、トラブルシューティング、パッチ適用、および変更管理を行なうことが可能です。

マルチテナント組織の分離：管理者は、ユーザーを業務部門や子会社など、ポリシー グループごとに分けることが可能です。それぞれのグループは独立した仮想リソースを持ち、個別の LDAP 認証を使用し、特定のポリシー制御と独自のカatalogを保持します。これらの機能により、複数の組織が同じインフラストラクチャを共有する、マルチテナント環境が実現します。

セルフ サービス Web ポータル：ユーザーは、使いやすい Web ポータルから、Catalogと仮想データセンターに直接アクセスできます。

VMware vCloud API、OVF、カスタム拡張機能：vCloud API は、オープンな REST ベースの API です。これにより、vApp のアップロードとダウンロード、Catalog管理、およびその他の操作など、クラウド リソースを利用するための作業をスクリプトによって処理できます。vCloud API は、OVF (Open Virtualization Format) を使用することで、クラウド間の基本的な転送を可能にします。これにより、アプリケーションのプロパティやネットワーク構成などの情報をクラウド間で維持します。また、カスタム拡張により、VMware vCloud Director がほかの連携システムにメッセージを送信できるようになります。

詳細情報

VMware 製品のご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

<http://www.vmware.com/jp/products>

仕様および要件の詳細については、製品のドキュメントを参照してください。

